

## 社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2017. 6  
No.286

### イナテック創立65周年

イナテックは、昨年6月16日に創立65周年を迎えました。それを記念し、去る4月16日、名古屋のANAGランコートホテルで65周年記念パーティーを開催いたしました。

パーティーには、遠路にもかかわらず大勢の社員のみなさんが出席くださって、良いパーティーになりました。本当にありがとうございます。

その時の私からの挨拶文をご紹介します。

イナテック創立65周年記念パーティーに当たり、イナテックの歴史を紹介しながら挨拶をさせていただきます。

このイナテックは、邦松会長が昭和25年にたった一人で「稲垣鉄工所」として創業したのが原点でございます。少ない資金、限られた古い機械を工夫し、昼夜を問わず一人で機械を動かす、昼休みにリヤカーで納品する日々でした。

翌年の昭和26年に私のお袋である、みよさんと結婚し、夫婦二人で製造、納品、新規の営業活動と不眠不休の連日でした。注文も増え、二人での仕事では追いつかず、若い職人さんたちの採用にも必死で取り組みました。職人さんたちは住み込みで働いてくださり、家族同様邦松会長の手足となつて仕事を学び、休日にはこの私もよく遊んでもらいました。その方たちが後に幹部となり、イナテックの礎を築いていただきました。感謝の気持ちで一杯でございます。

邦松会長の先見の明と並外れた情報力で、操業当初の井戸水を汲み上げるポンプの部品や繊維機械の部品から、本格的な車社会の到来を見越し、自動車部品加工に軸足を置くことになりました。

自動車部品加工を始めた当初、それまでの部品とは比べ物にならないほどのお客様からの高い精度要求を満たせず、なかなか認めてもら

えませんでした。しかし、「負けてたまるか、決して諦めるな！」の奮闘が徐々に実を結んできました。このような新しい挑戦とへこたれない意識は、イナテックのDNAとして脈々と今も受け継がれております。

平成元年、1989年に本社を米津から幡豆に移したときは、200台以上の設備移動を正月休み返上で立ち上げました。しかし、思うような精度が出せず、得意先様から認めてもらうには半年かかり、遅延が解消されるには1年もかかってしまいました。

その翌年の平成2年、1990年に私が社長に就任いたしました。今思えば38歳の青二才のこの社長に、社員の皆さんがよくついてきてくれたと思います。いろいろな問題は起こりましたが、好景気の波に乗り順調に業績を築き上げてきました。これも皆さんのおかげです。ありがとうございます。

そんなイナテックをどん底に貶めた事件は、2008年に端を発したリーマンショックでした。初めて経験する日々変わる減産情報に戸惑い、何をすればよいのかも分からず眠れない日が続き、会社を倒産させてしまうかもしれない、という恐怖に初めて襲われました。

しかしながら、浮かぶのは社員の皆さんの顔でした。私にとって家族同様の社員を「何が何でも守る！」と思うと、「負けてたまるか」魂が沸々と湧いてきました。政府の休業補償、人員調整、勤務体制の変更などを使い、イナテック社員の皆さんと一丸となり乗り越えてきました。そして、減産に底が見え、トンネルの出口に灯りが見え始めたときは本当に嬉しかったです。ほっとしました。しかし、V字回復を迎えるとは今度は人員が足りず、間接部門の人も現場のラインに入りしのでいきました。リーマンショックが私に社長としての試練を与えてくれたのと同時に、私を本気にさせてくれた事件でした。

あれから約10年の間に、2011年中国平湖工場、2015年に西尾東工場、昨年2016年4月にイナテックサービス、同年6月に鳥取工場と、相次いで新工場を立ち上げてきました。

駆け足しすぎて皆さんには無理をさせたかなとは思っていますが、邦松会長と同じく30年先を見越して立ち上げたつもりです。

現在は、大変好調なAW様の要求に応えきれないほどの発注を頂いております。また、昨今

の働き方改革の指導もあり、今では時間で仕事をこなす訳にも行かない時代となってきました。今からは、働く環境をより安全に、より効率的にし、智恵と工夫でやれるところから小規模自動化を進め、生産性を上げていく取り組みをしていきます。お金も設備も刃具もなかった創業当時、65年前の智恵と工夫で生き抜いたイナテックを蘇らせたいと願っております。

5年先、10年先と先を読むのが大変不透明な今の時代ですが、2051年イナテックの100周年を皆で盛大に祝えることを夢に、努力を惜しまない所存です。

最後に、いつも申し上げている「後からくる社員のために」の詩を読みます。

#### 四八

機動的、弓影疑爲蛇蝎、寝石視爲伏虎、此中渾是殺氣。念息的、石虎可作海鷗、蛙聲可當鼓吹、觸處俱見眞機。

心が動揺している者は、弓の影の映るを見ては蛇かと疑い、草むらに横たわる石を見ては伏した虎かと思える。そこには、見るものすべてが殺気に満ちている。(これに反して)、心が落ち着いている者は、暴虐な石虎のような男をも、海のかもめのように柔順にさせることができ、騒がしい蛙の鳴き声をも、つづみや笛のように美しい音楽として聴くことができる。そこには、触れるものすべてが真実なはたらきを現わす。

工場を、技術を深化しておくのだ

TPMを通して現場をきれいにしておくのだ

ああ、後から入社してきてくれる者たちのために、

苦勞し、我慢をし、全社員が全力で改善しつづけるのだ

あとから、あとから続いてくる、あの可愛い社員たちのために

皆さん、それぞれ自分にできる行動をしてゆくのだ

そして、もっといい会社をつくるのだ

明日からみんなで助け合いながら、100周年に向けてがんばりましょう。

以上です。ありがとうございます。

社員の皆さんに65周年の感謝の気持ちを込めて、5月にお配りした給料袋にQRカードを同封しましたので、どうぞお使いください。

